

2011 年 8 月 31 日から 9 月 9 日までの 10 日間、「国際社会で活躍する人材養成特別プログラム」に所属する学部・学年を横断した 8 名の学生が、岩手県遠野市にある「NPO 遠野まごころネット」に参加し、ボランティア活動を行ないました。参加した学生は、2011 年 3 月 11 日に発生した未曾有の震災から約半年、未だ思うように進まない復旧・復興の現状を目の当たりにし、「自分達にできることは何なのか」ということを問い続けながら活動に参加していました。

10 日間の滞在中、参加者は学生の個人参加も受け入れている「遠野まごころネット」の拠点地である遠野総合福祉センターで、ほかのボランティアの方々と寝食を共にし生活しました。同団体は、岩手県大槌町、陸前高田、釜石市を中心とした被災地の復旧作業や、仮設住宅での被災者との触れ合い、被災者同士の交流の場の設置、教育支援、写真修復、農家での作業など幅広い支援を展開しています。参加した学生は、岡本行夫客員教授が説く「現場を知る」ことの重さや、被災地の復旧・復興にむけた長い道のりを感じつつ、今後のそれぞれの支援のあり方を考えるきっかけとなりました。

今回の東北支援プロジェクトは、自身も「希望の烽火（のろし）」プロジェクトを立ち上げ東北沿岸の漁業再開に尽力されている岡本行夫客員教授のご支援のもと行われました。

今回の岡本行夫客員教授講演会は、10 月 25 日（火）衣笠キャンパスにて「大震災後の日本が直面する 5 つの危機」をテーマに開催される予定です。

<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/cer/kokusaiHP/kokusai/lecture/top.htm>



遠野まごころネットの活動に参加